

3.11 から 10 年 — 未来のために 伝えたいこと



▲石巻市日和山公園(平成23年4月)。出所:東日本大震災アーカイブ宮城(石巻市)HP(左下写真も)

平成23年(2011年)3月11日の東日本大震災から、もうすぐ10年。先月には福島県と宮城県で最大震度6強の地震が発生しました。首都圏でも、30年以内に70%の確率で首都直下地震が起こると言われています。大震災は決してひとごとではありません。東日本大震災の被災地である宮城県内で復興支援業務に当たった区職員に話を聞きました。



大和区民活動センター
吉田さん

震災直後に短期で東松島市へ、その後平成25年~同30年に長期で石巻市へ派遣。石巻市では生活再建支援業務に従事



▲震災前の風景が分かるようにと日和山公園に設置されたパネル(平成24年)

被災地での業務や当時の様子について教えてください

震災直後に東松島市へ派遣された時は、まだ女川街道にがれきが残っていたのを覚えています。その後平成25年から6年間、石巻市へ派遣されました。業務の内容は、住家被害の度合いに応じた生活支援の案内やその事務処理です。赴任直後は「住む場所がない。仮設住宅に入れてほしい」という要望がまだあり、怒鳴り声があちこちから聞こえるような、殺伐とした雰囲気でした。平成25年の秋ごろからだいぶ落ち着いてきたように感じましたね。

仕事で印象に残っていることは

市民の方から「あなたは震災を知らないのだから、地元の職員に代わってほしい」と言われたことです。市の職員のほとんどが市内に住んでおり、両親や配偶者、お子さんなどを亡くしたり、住家を失ったりしています。職員の多くがそれらの悲しみや苦しみを背負って仕事をしている姿を見ました。市民も職員も、本当に過酷な状況だったと思います。

被災地の変化を見て感じたことは

私が石巻市にいた6年の間に、がれきがあった場所が更地になり、住家の再建も進みました。しかし石巻市の被災者の多くは家だけでなく、漁場や田畑などの仕事の場も津波で奪われています。仕事ができなければ家を再建することも、生活することもできないのです。「心の復興が大事だ」と、派遣当初の上司がよく言っていました。まだご遺体が見つからない方も大勢います。被災者以外の方にとって、3.11は年に1回思い出すだけでもかもしれませんが、被災者は仕事や大切な人を失い、日常の中に震災の生々しい爪痕がまだ残っていると感じています。

被災地での経験から思うことは

「災害は理不尽だ」ということです。石巻市のような大災害の痕跡を間近に見聞きして、何を準備したら助かるなどと簡単には言えません。大震災後は予想もしないことが次々と起こります。大切なのは、「とにかく安全な場所にいる」こと。区内なら火事や建物の倒壊から逃れるため、防災地図などを確認しておくことも役立ちますね。

吉田さんからみなさんへ伝えたいこと

町会・自治会はいざという時の強い味方

地域コミュニティに入っておくことは、実は防災の面からも大切なんです。大災害の時は各町会・自治会が基となった防災会が中心となって避難所を開設。避難所は、食料品や毛布などの備蓄品を提供する場です。町会に加入し、普段から近所付き合いをして家族構成などを知っておいてもらうことで、非常時もスムーズに助け合うことができます。

帰宅困難者対策や地域の力

東日本大震災の時、区内でも多くの帰宅困難者が発生しました。そこで都と区は、一時滞在施設や災害時帰宅支援ステーションの確保など帰宅困難者対策を進めています。区HPで詳しく紹介しているので、ぜひご覧ください。また、災害時には地域のみなさんの絆がとても重要だと感じています。普段から近所の方と声を交わしておくこと強いですね。



▲帰宅困難者対策について詳しくはこちら



3月11日は地震の発生時刻から1分間の黙とうを

復興協働担当/4階 ☎(3228)3250 FAX(3228)5647

東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするため、地震発生時刻の午後2時46分から1分間の黙とうを行います。ご協力をお願いします。当日、区長から黙とうのお願いを防災無線で放送します。

災害後を生き抜くための備え

自宅の倒壊や火災、家具の転倒などの被害を免れても、電気やガス、水道などのライフラインや物資の供給が止まることも。支援が届くまで、少なくとも1週間は生活できるよう、食料品や飲料、日用品を備えましょう。

らくらく「日常備蓄」を

日頃利用している食料品や生活必需品を少し多めに備え、古いものから消費して補充するだけで簡単に備蓄ができます。避難生活で役立つ、水や加熱不要の食料品、常備薬など、最低限備えておきたいものについては、「中野区民防災ハンドブック」をご覧ください。



▲「中野区民防災ハンドブック」は区HPでもご覧になれます

「非常用持ち出し袋」の点検を

自宅で生活できない場合に備えて中身を用意。年に1度は点検し、玄関の近くや寝室、車の中など、持ち出しやすい場所に配置しましょう。

チェックポイント

- 食料品や水、乾電池などの期限が切れていないか
- 懐中電灯やラジオはつくか
- マスクや消毒剤など感染症対策用品があるか
- おむつや常備薬など、今の自分や家族に必要なものがそろっているか



防災地図などで危険度を確認

「中野区防災地図」(中野の防災)では地震に関する地域危険度などを、「中野区ハザードマップ」では浸水予想区域などを確認できます。☆区役所8階14番窓口などで配布。区HPでもご覧になれます



▲中野区防災地図(全域版)

防災動画で学ぶ

避難所での防災資機材の使い方などをYouTubeで紹介しています。いざという時のため、ぜひご覧ください。



▲中野区公式 YouTube チャンネル



▲消防職員から学ぶ動画も